

いま、農村をつくり直すとき

「新潟百姓一揆」上越集会が8日、カニ池公園にて行われました。呼びかけにもかかわらず、会場には30人ほどの人たちが集まり、それぞれの思いを語り、いまの農業危機打開を訴えました。



6月定例議会の一般質問では、コメのこを中心とした農業問題、地域医療対策をとりあげました。中川市長とのやりとりでは、関係自治体にも情報提供せずに地域医療再編を進めている県の非民主的なやり方など、新たな事実も判明しました。紙面の関係で、次号で報告する予定です。



【無事3羽とも巣立つ】前号でお知らせした通りとなりました。吉川区にあるコウノトリの巣では13日、残る1羽も無事巣立ちました。巣立ったと言っても、ひと月半くらいは巣に戻ったり、田んぼに下りたりしています。上の写真は、親から離れ、3羽のヒナだけで田んぼ周辺にいる様子。17日の朝に撮影しました。

集会では、実際に農業をやっている人たちが、「国はだまして農家を生かさず殺さずやってきた。いま一番苦しいのは騙されて規模を大きくしてきた農家だ。山下惣一さんの言葉に『市民皆農』という言葉がある。農家を増やせ、家庭菜園でもいい、みんなで農産物をつくらう、少しでもみんなと一緒に食糧作っていいこう、農業を守っていいこう」（鳴谷幸彦さん）、「私に住んでいる大和地区は農民運動が盛んな所だった。私はいま83歳だが、日本農業を支えているということを自負して、ボチボチやっている。これからも頑張りたい」（小林政紀さん）、「30年間、私も騙されて大規模化を追求してきた一人だ。村の農家が一人、また一人とかけていき、農家も商店もなくなっていく。お医者さんもスパーもなくなっていく。仮に一人だけ大規模経営で生き残ったとしても子どもたちはそこで育つのだろうか。競争社会が農村の隅々まで浸透してきて、地域がどうなっていくのだろうという気持ちだ」（平澤栄一さん）などと訴え、共感を呼びました。

締めくくりにマイクを握ったのは呼びかけ人の一人、吉川区の天明伸浩さんです。天明さんは、「農家は歯を食いしばって努力してきた。いま、農家の状況は大変だ。農家はどんどん減る、小中学校は統廃合する、これでは村がなくなっていく。コメ作りなど農業をする大きな企業がやってきても、そこに暮らす人たちがいなければ地域はなくなっていく。私はいま、そういう農村をもう一回つくり直す瞬間（とき）だと思ふ。未来のために、もうひと踏ん張りして新しい時代をつくっていききたい」と決意を述べました。



【ホタルブクロ】（再掲）。キキョウ科の多年草。漢字で「螢袋」と書きます。ホタルが出る時期とほぼ重なるので、この花を見ると螢を思い出します。わが家が尾神岳のふもとにあったころは家の周辺でも見かけたものです。花期は5月下旬～7月。白や薄いピンクの花を咲かせます。花言葉は「激しい束縛」。17日、吉川区代石にて撮影しました。

はしづめ法一の活動レポート

No.2208 2025.6.22

発行編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず

Tel 025-548-3627

通じないときは 090-5392-1961

E-mail hasiznysg_0808@yahoo.co.jp

URL <https://www.hose1.jp/>



ブログ
「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第八五五回

つながり(2)

またまた、びっくりしました。思わぬところで人と人がつながっていることを知ったからです。

先日、直江津から大潟区経由での帰り道、私は活動レポートを届けるためにMさん宅に寄りました。そこで新ジャガ、コーヒー、お茶をいただきながらおしゃべりを楽しみ、改めてそう思いました。

私の大好きな音楽グループのひとつ、「吟遊詩人」のメンバーだったYさんがMさんとつながっていたとは……。

Yさんは先月の半ば、突然亡くなりました。その前日、コンサートで演奏し、その夜はお連れ合いとコンサートの成功に感謝し、祝杯を挙げた。しかし、翌朝、なかなか起きてこないのにお連れ合いが起こしにいったところ、すでに亡くなっていたというのです。そんな状況ですから、駆けつけた仲間には穏やかな顔をしているYさんを見て、「おい、何を寝ているんだ」と言ってしまうのかけたとのことでした。

それを聞いただけでも驚いたのですが、MさんはYさんだけでなく、Yさんのお連れ合いとも数十年前から合唱団「うみなり」などで付き合いがあったというのです。お連れ合いはある高校で養護教諭をやっていたことがあり、あだ名は「チャー」だったことまでご存じでした。

そのYさんと私は、一回しか話をしたことはありませんでした。一度目は汚泥センターだったと思いますが、Yさんに声をかけられ、私の拙いイラストをほめてもらいました。二度目は直江津の学びの交流館です。そこでは「吟遊詩人」のリーダーのお連れ合いとYさんとの三人で言葉を交わしました。その時も話題は私のイラストだったのです。その会話が「吟遊詩人」のユニフォームにおける私のイラスト採用にもつながっていききました。

合唱団の話になったので、私から、「今

年の卯の花音楽祭はいつになるの」と訊いたら、七月二十一日だとのことでした。それで、「その音楽祭に今年は私の従妹（い）とこ）も出るようですよ」と言ってから、話は従妹に関連する話に進みました。

私の従妹は以前、どのグループかは記憶してないのですが、合唱グループに入っていました。たぶん、卯の花音楽祭にも出たことがあると思います。今回、従妹はMさんと同じグループで練習を重ね、卯の花音楽祭に出るようですから久しぶりの出演となります。

従妹は連れ合いが亡くなってから、家のそばの畑仕事に精を出したり、友人とおしゃべりしたりしていますが、何でも意欲的に取り組むタイプです。ここ数年、連れ合いと同級生だった人が何人も亡くなりました。そのうちの一人は従妹が以前仕事をしていた農業生産法人のリーダーだったのですが、そのリーダーのお連れ合いや他の同級生のお連れ合いなどと「〇〇〇の会」なるものを立ち上げ、お互いに励まし合っていることも知りました。

この日、Mさん宅でいただいた新ジャガは、私が訪ねることを知って、お連れ合いのK子さんが急いで茹でたものだそうです。「バターをつけますか、それともマヨネーズをつけますか」と訊かれ、私は「バターでお願いします」と答えました。スプーンで掬（すく）うようにして食べたのですが、新ジャガはほくほく感があり、とても美味しかったです。

今年は天候不順で、梅雨入りがいつもよりも早く、ジャガイモの収穫時期は微妙なところがあります。「いつ収穫するか難しいね」と言ったところで、K子さんが「吟遊詩人」のYさんのお連れ合いとかつて合唱の仲間だったことも知りました。人間もジャガイモと同じように見えないところにつながっているんですね。

県展での作品解説を初めて聴く

教育プラザの体育館で開催中だった県展を観てきました。

写真と洋画部門に注目して出かけたのですが、丁度、洋画部門で小林信治さんが解説中でした。専門的なことはわかりませんが、解説してもらえると、なるほどと思います。幸運でした。



上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月11日(水)	6月18日(水)
上越消防署	0.053	0.050
上越南消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.060	0.050
名立分遣所	0.060	0.050
高士分遣所	0.050	0.053

朝市で南京玉すだれを披露



最近、朝市で花や野菜などを売り始めた頸城区のMさんから面白い話を聞きました。

先日の三八市には直江津小学校の児童が校外学習で来たとのことですが、その際、Mさん得意の南京玉すだれを披露したら、児童も先生も大喜びだったといひます。ひょっとしたら、芸を披露することも目的だったのかな。

春よ来い

第八五五回

つながり(2)

またまた、びっくりしました。思わぬところで人と人がつながっていることを知ったからです。

先日、直江津から大潟区経由での帰り道、私は活動レポートを届けるためにMさん宅に寄りました。そこで新ジャガ、コーヒー、お茶をいただきながらおしゃべりを楽しみ、改めてそう思いました。

私の大好きな音楽グループのひとつ、「吟遊詩人」のメンバーだったYさんがMさんとつながっていたとは……。

Yさんは先月の半ば、突然亡くなりました。その前日、コンサートで演奏し、その夜はお連れ合いとコンサートの成功に感謝し、祝杯を挙げた。しかし、翌朝、なかなか起きてこないのにお連れ合いが起こしにいったところ、すでに亡くなっていたというのです。そんな状況ですから、駆けつけた仲間には穏やかな顔をしているYさんを見て、「おい、何を寝ているんだ」と言っているのを聞いたとのことでした。

それを聞いただけでも驚いたのですが、MさんはYさんだけでなく、Yさんのお連れ合いとも数十年前から合唱団「うみなり」などで付き合いがあったというのです。お連れ合いはある高校で養護教諭をやっていたことがあり、あだ名は「チャー」だったことまでご存じでした。

そのYさんと私は、一回しか話をしたことはありませんでした。一度目は汚泥センターだったと思いますが、Yさんに声をかけられ、私の拙いイラストをほめてもらいました。二度目は直江津の学びの交流館です。そこでは「吟遊詩人」のリーダーのお連れ合いとYさんとの三人で言葉を交わしました。その時も話題は私のイラストだったのです。その会話が「吟遊詩人」のユニフォームにおける私のイラスト採用にもつながっていききました。

合唱団の話になったので、私から、「今

年の卯の花音楽祭はいつになるの」と訊いたら、七月二十一日だとのことでした。それで、「その音楽祭に今年は私の従妹(いとも)も出るようですよ」と言ってから、話は従妹に関連する話に進みました。

私の従妹は以前、どのグループかは記憶してないのですが、合唱グループに入っていました。たぶん、卯の花音楽祭にも出たことがあると思います。今回、従妹はMさんと同じグループで練習を重ね、卯の花音楽祭に出るようですから久しぶりの出演となります。

従妹は連れ合いが亡くなってから、家のそばの畑仕事に精を出したり、友人とおしゃべりしたりしていますが、何でも意欲的に取り組むタイプです。ここ数年、連れ合いと同級生だった人が何人も亡くなりました。そのうちの一人は従妹が以前仕事をしていた農業生産法人のリーダーだったのですが、そのリーダーのお連れ合いや他の同級生のお連れ合いなどと「〇〇〇の会」なるものを立ち上げ、お互いに励まし合っていることも知りました。

この日、Mさん宅でいただいた新ジャガは、私が訪ねることを知って、お連れ合いのK子さんが急いで茹でたものだそうです。「バターをつけますか、それともマヨネーズをつけますか」と訊かれ、私は「バターでお願いします」と答えました。スプーンで掬(すく)うようにして食べたのですが、新ジャガはほくほく感があり、とても美味しかったです。

今年は天候不順で、梅雨入りがいつもよりも早く、ジャガイモの収穫時期は微妙なところがあります。「いつ収穫するか難しいね」と言ったところで、K子さんが「吟遊詩人」のYさんのお連れ合いとかつて合唱の仲間だったことも知りました。人間もジャガイモと同じように見えないところにつながっているんですね。

春日久代さん偲び歌謡祭開催

2025年 第5回 月影歌謡祭 昭和・平成・令和の歌白樺を披露!

6月22日(日)、8:30開場、9:30開演~15:00予定

会場: 宿泊体験交流施設「月影の郷」多目的ホール 入場無料

演歌・舞踊・マジック・腹話術など40名出演、春日久代さん偲ぶステージ

主催: 企業組合月影の郷 春日さんを偲ぶ会 会長: 渡かず恵
お問合せ先: 横尾修一 090-7723-8967・TEL/FAX025-599-3302・mail:info@tsukikage.net

この22日(日)、浦川原区の「月影の郷」多目的ホールで恒例の「月影歌謡祭」が行われます。

この歌謡祭は5回目になりますが、今回は2月に亡くなった東保の春日久代さんを偲ぶ会としての開催となります。

春日さんは浦川原区の文化活動に多大な貢献をされました。私も思い出を語ります。イラストは私。

ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量率測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

	6月11日(水)	6月18日(水)
上越消防署	0.053	0.050
上越南消防署	0.050	0.050
新井消防署	0.050	0.050
頸北消防署	0.057	0.053
頸南消防署	0.067	0.060
東頸消防署	0.060	0.050
名立分遣所	0.060	0.050
高士分遣所	0.050	0.053